

特集

Special feature

第6回

生活者アンケート

一般消費者を対象とした「生活者アンケート(2015年10~11月実施)」を基に、「身近な出来事」に対する意識についてレポートします。



意識調査

『生命保険の加入状況等』
『地方創生』

はじめに

ふくおかフィナンシャルグループのグループ会社である株式会社F FGBビジネスコンサルティングでは、この度「F F G生活者アンケート調査(第6回)」を実施しました。

この調査は、その時々¹の社会的な動向等に着目し、一般消費者の方を対象に、消費者行動や社会心理に関するアンケートを行うことにより、より身近な目線で地域の皆様の生活者意識を捉えようとする取り組みで、今回が6回目の調査となります。

今回は、「生命保険の加入状況等」と「地方創生」についてのアンケート調査の結果をお知らせします。

【調査概要】

調査対象：一般消費者の方500名
(男性207名、女性293名)
調査時期：平成27年10月～11月
調査方法：福岡銀行、熊本銀行、親和銀行のホームページ上でのインターネット調査

【回答者の属性】

年齢	男女計	男性	女性
全体	500名 100.0%	207名 41.4%	293名 58.6%
20代	99名 19.8%	39名 7.8%	60名 12.0%
30代	101名 20.2%	42名 8.4%	59名 11.8%
40代	101名 20.2%	30名 6.0%	71名 14.2%
50代	100名 20.0%	40名 8.0%	60名 12.0%
60代以上	99名 19.8%	56名 11.2%	43名 8.6%

(上段:回答数、下段:構成比)

1 生命保険の加入状況等

【調査結果の概要】

1. 保険加入率は、20代が約6割、30代以上は9割超だった。
2. 現在加入している保険の種類については、「医療保険」が最も多く(約8割)、万が一の時の入院・手術保障への関心が高いことがわかった。
3. 月々の掛け金は、2万円未満が約6割を占めた。30代以降に掛け金が高くなる傾向にあり、家庭を持ち始める時期に保険の追加加入や保障内容の見直しを行っていることがうかがえる。

4. 保険に加入したきっかけは、「社会人になった」が最も多く、次いで「結婚した」という結果となり、人生の転機に保険へ加入する方が多いことがわかった。
5. 保険を選ぶ際に重視することは「保障内容」が約8割、次いで「保険料」が約7割となっており、年齢が高くなるほど「万が一の時にしっかりと保障してもらえたい」とを重視する傾向にある。
6. 保険に加入する際の相談相手は、30代以下は「親」、40代以上は「配偶者」が最も多かった。
また、男性は「配偶者」が約6割を占めたが、女性は4割弱に留まった。女性は「親」や「保険会社の販売員」、「銀行の担当者」等に幅広く相談する傾向にある。
7. 保険加入の窓口は、「保険会社の販売員」が約7割を占めているが、「銀行の担当者」が2割、「インターネット」、「来店型保険ショップ」も1割程度と、窓口が多様化しつつあることがわかった。
8. 保険に加入していない理由について、「加入するきっかけがなかった」との回答が最も多かった(3割超)。
9. 保険未加入者のうち20代、30代の多くは「時期は未定だがいつか加入しようと思っている」と回答しており、保険加入の潜在的ニーズを有していることがわかった。

【総括】

「万が一の時に備える」生命保険は、私たちの人生に欠かせないものとなっています。今回のアンケート結果から、
①一般消費者の方は保険の必要性を認識していることが改めて明らかになるとともに、
②それぞれのライフステージ等に合わせ、保障内容の見直しを適宜行っていること、
③そして保険加入の窓口が多様化しつつあることが明らかになりました。
現在、働く女性向けの保険や、必要な保障内容に絞リコストを抑えた保険など、社会環境や消費者ニーズの変化に合わせて、生命保険の内容は多様化しています。今後はそうした多様な保険商品の中から自らにとって最適な保険をいかに選択するか、ということがますます重要になっていくと考えられます。

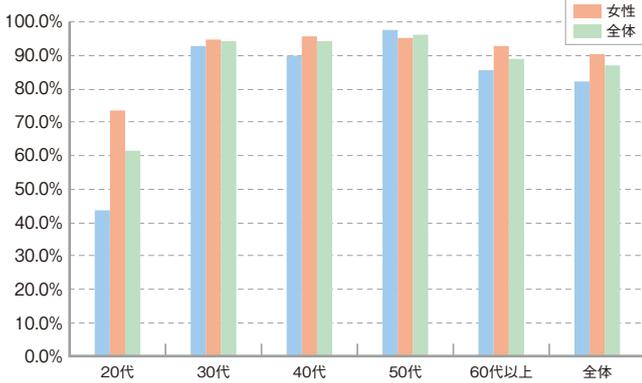
問1

保険に加入していますか？

現在保険に加入しているか尋ねたところ、20代は61・6%、30代は94・1%、40代は94・1%、50代は96・0%、60代以上は88・9%と、20代以外は大半の方が保険に加入していることがわかりました。

加入率の低い20代については、約7割の女性が保険に加入している一方で、男性の加入率は約4割に留まっています。

▼図1 保険加入率

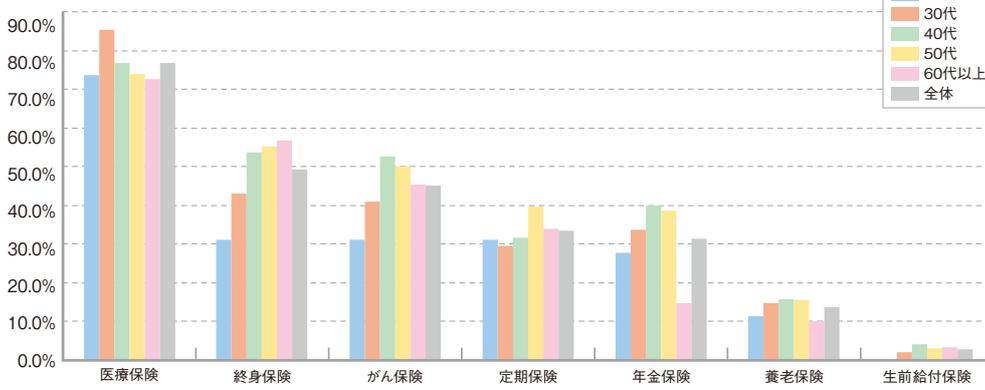


問2

現在どの種類の保険に加入していますか？(複数回答)

現在加入している保険の種類について尋ねたところ、「医療保険」が76・8%と最も多く、次いで「終

▼図2 加入している保険の種類 (n=435人)



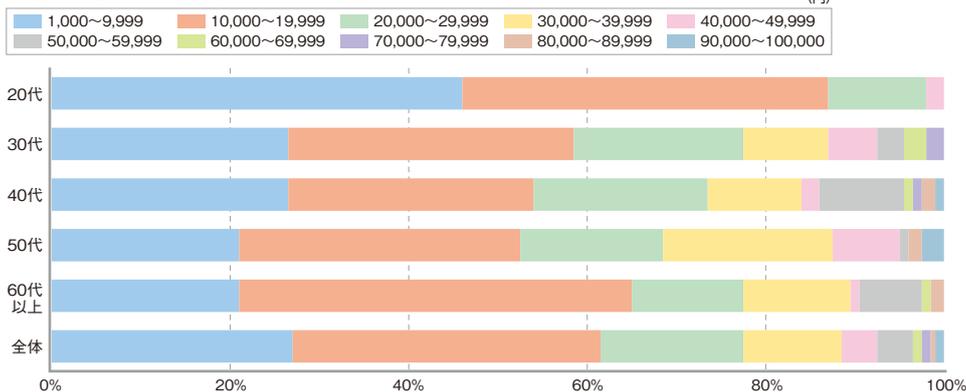
問3

月々の掛け金の合計額は
いくらくらいですか？

身保険」が49・2%、「がん保険」が45・1%となりました。
年代別に加入状況を見ると、医療保険は全年代で高くなっている一方で、終身保険やがん保険は年齢が高くなるほど加入率が高くなっています。「自身のけが・病気に備える」や「万が一の時に家族に資産を遺す」、「年齢が高くなるほどリスクが高まる病気に備える」など、保険加入のニーズは様々であり、それぞれのライフステージに合わせて保険に加入している様子がうかがえます。

月々の掛け金の合計額について尋ねたところ、「1万円以上2万円未満」が34・4%、「1千円以上1万円未満」が27・2%となり、2万円未満が6割超となっています。
年代別に見ると、30代以降に掛け金が高くなる傾向にあり、結婚や子どもの誕生等をきっかけに保

▼図3 月々の掛け金合計額 (n=390人)



険の追加加入や保障内容の見直しを行っていることがうかがえます。
また、60代以上になると、子どもが独立し、高額な死亡保障は不要となることから保障内容の見直しを行い、掛け金を抑える傾向にあることもわかります。

問4

加入したきっかけは何ですか？
(複数回答)

保険に加入したきっかけについて尋ねたところ、「社会人になった」が40・7%、「結婚した」が25・3%を占め、人生の転機に保険へ加入する方が多いことがわかりました。

男女別に見ると、男性は「結婚した」「子どもが生まれた」と回答した割合が高く、家族への備えのために保険に加入している傾向がうかがえる一方、女性は「自分の健康に不安を感じた」が高く、乳がんなどの女性特有の疾病への対策等、自身の病気に対する保障に関心が高いことがうかがえます。

問5

保険を選ぶ際に重視することは何ですか？(複数回答)

保険を選ぶ際に重視することについて尋ねたところ、「保障内容」が84・1%、次いで「保険料」が75・2%、「保険会社の信用力」が55・6%となりました。

問6

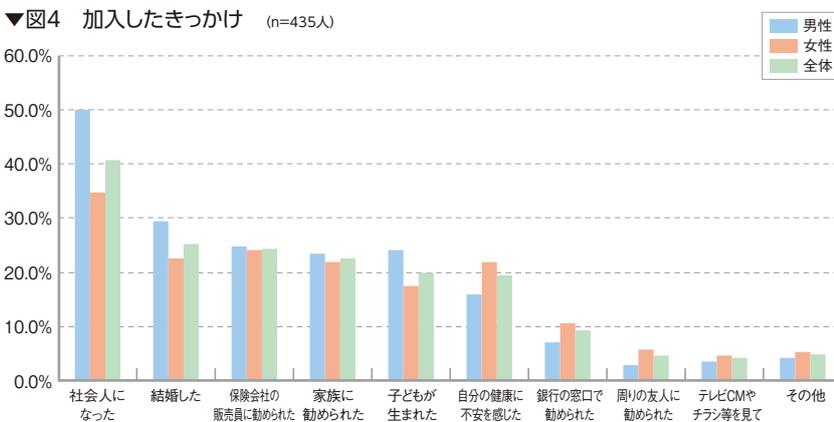
保険に加入する際に誰に相談しましたか？(複数回答)

年代別に見ると、20代では「保険料」を重視する方がやや多くなっている一方で、30代以上においては「保障内容」「保険会社の信用力」を重視する方が多くなっており、家庭を持った後は、保険料よりも方が一の時にしっかりと保障を受けられるか、ということに関心が強くなる傾向にあると言えます。

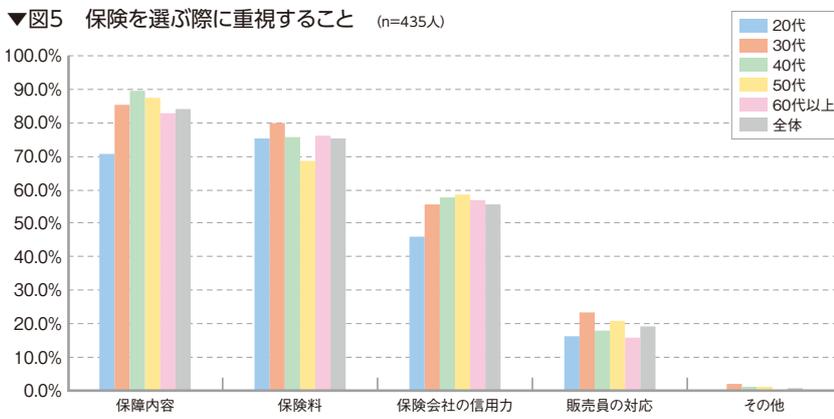
保険に加入する際の相談相手について尋ねたところ、「配偶者」が44・4%、「保険会社の販売員」が28・7%、「親」が26・4%を占めました。男女別に見ると、男性は「配偶者」が約6割を占めましたが、女性

は4割弱に留まりました。女性は、「親」や「保険会社の販売員」、「銀行の担当者」等に幅広く相談する傾向がうかがえます。

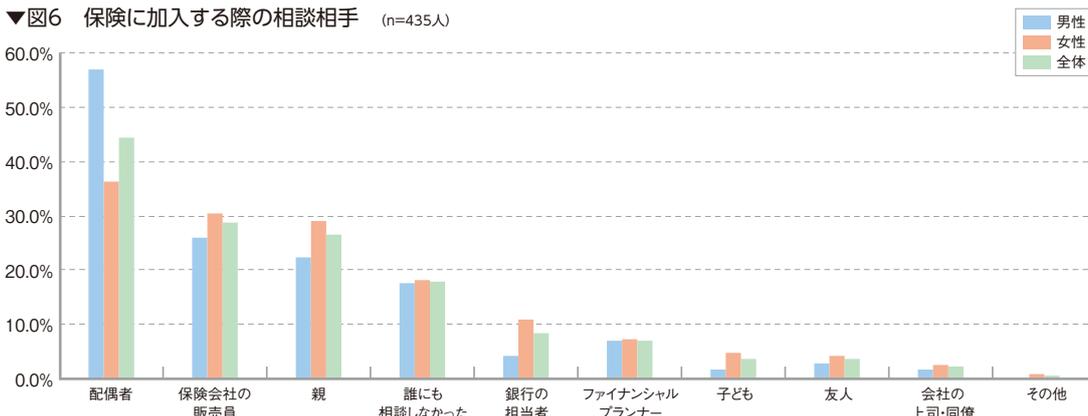
▼図4 加入したきっかけ (n=435人)



▼図5 保険を選ぶ際に重視すること (n=435人)

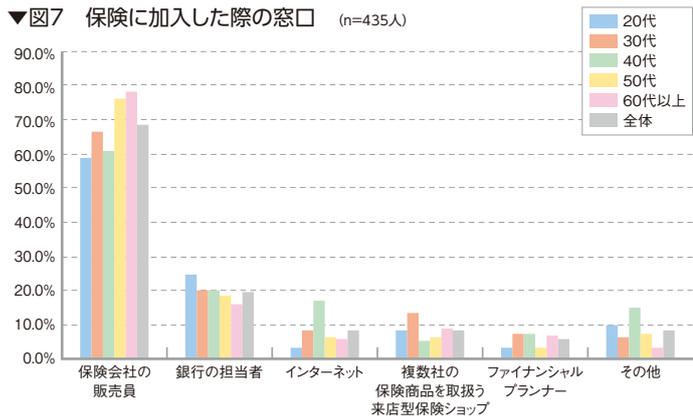


▼図6 保険に加入する際の相談相手 (n=435人)



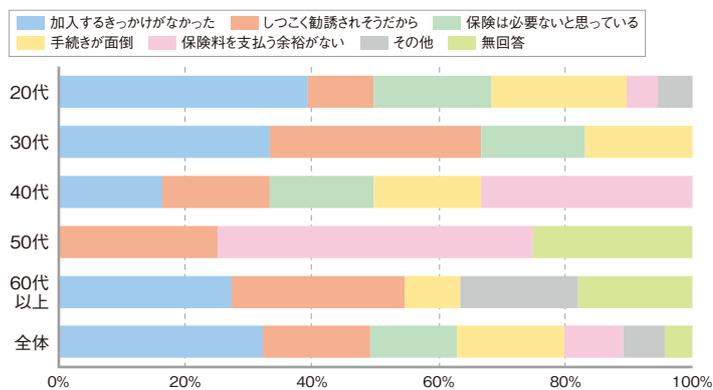
問7 保険に加入した際の窓口はどこですか？(複数回答)

▼図7 保険に加入した際の窓口 (n=435人)



保険に加入した際の窓口について尋ねたところ、「保険会社の販売員」が最も多く、約7割を占めました。次いで「銀行の担当者」が約2割、「インターネット」、「来店型保険ショップ」は1割程度となりました。年代別に見ると、年齢が高くなるほど「保険会社の担当者」の割合が高くなり、若くなるほど「銀行の

▼図8 保険に加入しなかった理由 (n=65人)



問1で「加入していない」と回答した方にその理由を尋ねたところ、担当者」の割合が高くなっています。また、30代では「来店型保険ショップ」、40代では「インターネット」の割合が高くなっており、保険を選ぶ窓口が多様化しつつあることがうかがえます。

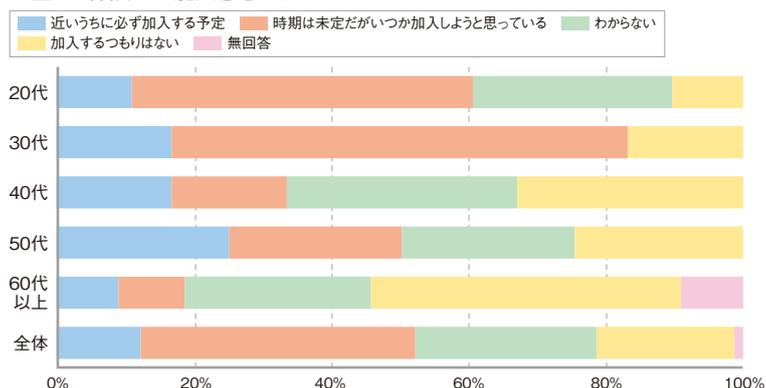
問8 保険に加入しなかった理由は？

問9 今後保険に加入しようと思いませんか？

問1で「加入していない」と回答した方に今後保険に加入しようと思うか尋ねたところ、「時期は未定だがいつか加入しようと思っている」が40・0%と最も多く、「近い

「加入するきっかけがなかった」との回答が多くなる傾向が見られ、40代、50代では「保険料を支払う余裕がない」との回答が多くなっています。年代別に見ると、若くなるほど「加入するきっかけがなかった」との回答が多くなる傾向が見られ、40代、50代では「保険料を支払う余裕がない」との回答が多くなっています。年代別に見ると、若くなるほど「加入するきっかけがなかった」との回答が多くなる傾向が見られ、40代、50代では「保険料を支払う余裕がない」との回答が多くなっています。

▼図9 保険への加入意思 (n=65人)



うちに必ず加入する予定」も含めると5割超が保険への加入ニーズを有していることがわかりました。年代別に見ると、40代以上は「わからない」、「加入するつもりはない」と回答した方が多くなったのに対して、20代、30代は「時期は未定だがいつか加入しようと思っている」と回答した方が多く、特に若年層ほど保険への加入ニーズは高いと言えます。

2 地方創生

【調査結果の概要】

1. 現在住んでいるまちについて

●現在の居住地域が「暮らしやすい」との回答や、現在の居住地域に将来も「住み続けたい」との回答がともに約8割を占めたが、若年層ほど現在の居住地域に対する満足度および今後の継続居住意向は低い結果となった。

●現在の居住地域に住み続けたくない理由としては、「買い物不便」、「公共交通網が整っていない」との回答が多く、日常生活の利便性が今後の居住意向を左右する要素として大きなウェイトを占めている。

●まちの魅力を高めるためには、祭りや地域イベントの開催、スポーツ大会の誘致等といったイベント面の拡充よりも、「子育て支援や家庭と仕事の両立をかなえる環境の整備」、「若者や高齢者への就労支援」、「医療・福祉サービスの充実」の実施を優先すべきだと考えている人が多いことがわかった。

2. 今後の少子化対策について

●今後出生率を高めるために必要な取組みとして、「教育費や養育費など、子ども向けの経済的援助の増加」等の直接的な援

助と「家事・育児と仕事を両立できる環境の整備」等の子育てしやすい環境の整備の双方に取り組んでいくことが重要だと多くの方が考えていることがわかった。また男女間で意識に差が見られた。

【総括】

今後、地方を中心に人口減少が加速度的に進むことが予測されているなか、国内の各地域・地方がそれぞれの特長を活かした魅力ある地域をつくることで、地方を活性化させ、人口減少に歯止めをかける「地方創生」がこれからの日本における重要な課題となつていきます。

今回のアンケートからは、その「魅力ある地域」の条件として、

①子育て、就労、医療・福祉等、「生活のしやすい環境であること」が何よりも重要である、との声が多く寄せられました。

②また、そうした環境づくりは、少子化対策にもつながる、との結果も示されています。

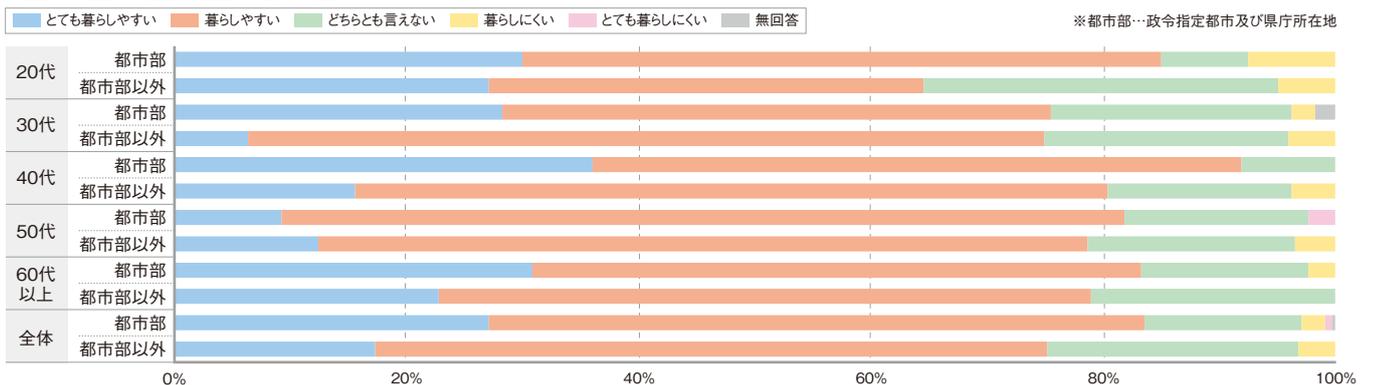
生活のしやすい環境は「朝夕で実現できるものではありませんが、今後地域が一体となって課題解決に向けた取り組みを積み重ねていくことによつて、地方創生の実現へつながることが期待されます。

問1 現在の居住地域は暮らしやすいですか？

現在の住んでいるまちの暮らしやすさについて尋ねたところ、「暮らしやすい」が57.2%、「とても暮らしやすい」が21.8%を占め、約8割の方が現在の居住地域に満足していることがわかりました。

居住地域別に見ると、生活インフラや働き先等が充実している都市部（政令指定都市及び県庁所在地）にお住まいの方は「暮らしやすい」、「とても暮らしやすい」が全ての年代において約8割を占めました。一方、都市部以外にお住まいの方は全体的に都市部の方に比べて満足度が低く、特に20代においては「暮らしやすい」、「とても暮らしやすい」が約6割に留まりました。

▼図1 現在の居住地域に対する暮らしやすさ



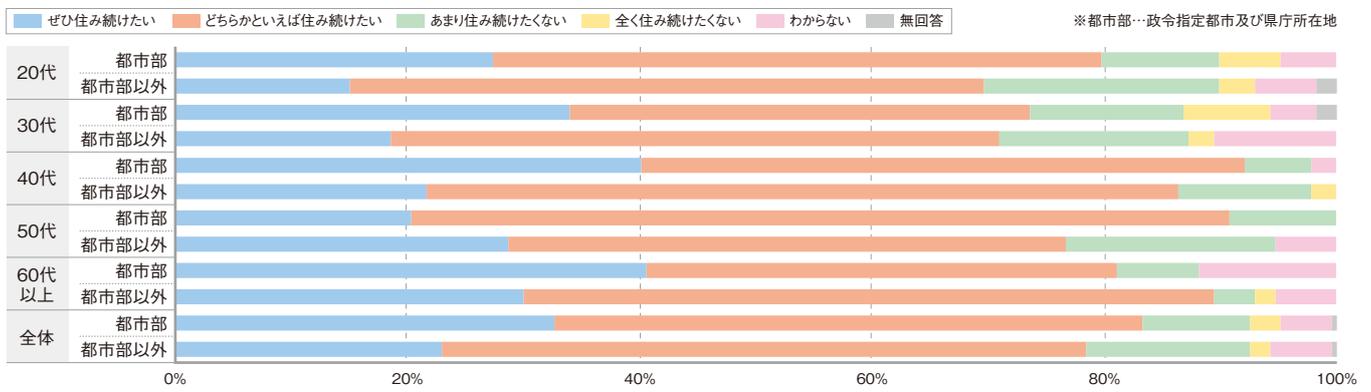
問2 現在の居住地域に将来も住み続けたいですか？

現在住んでいるまちに将来も住み続けたいかどうか尋ねたところ、「どちらかといえば住み続けたい」が53・4%、「ぜひ住み続けたい」が27・4%を占め、住み続けたい人が全体の約8割を占めました。

年代別に見ると、20代、30代は「あまり住み続けたくない」、「全く住み続けたくない」と回答した割合が高く、住居の購入前の年代については、他の年代と比べて他地域への移住のハードルが低いことがわかりました。

居住地域別に見ると、都市部にお住まいの方は「住み続けたい」が全ての年代において約8〜9割を占めました。一方、都市部以外にお住まいの方は40代以上においては「住み続けたい」が8〜9割を占めました。30代以下においては約7割に留まり、他の年代や都市部の20代、30代よりも移住志向が強くなっています。

▼図2 現在の居住地域に住み続けたいか



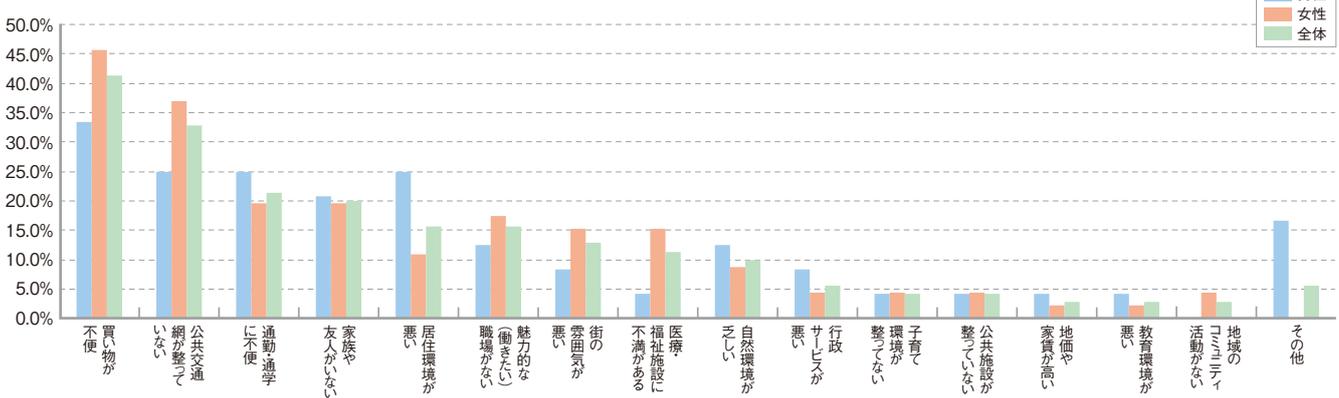
問3 住み続けたくない理由は何か？ (重要だと思う理由を3つまで)

問2で「あまり住み続けたくない」、「全く住み続けたくない」と回答した方にその理由を尋ねたところ、「買いた物が不便」が41・4%、次いで「公共交通網が整っていない」が32・9%と、他の回答より10%以上高くなっており、日常生活の利便性が今後の居住意向を左右する要素として大きなウェイトを占めていることがわかります。

年代別に見ると、20代は「通勤・通学に不便(45・0%)」と回答した割合が高く、30代は「居住環境が悪い(35・0%)」と回答した割合が高くなりました。

男女別に見ると、女性は「買いた物が不便」、「公共交通網が整っていない」等の日常生活の利便性を重視する傾向がより強くなっている一方、男性は、「通勤・通学に不便」や「居住環境が悪い」の割合が高くなっています。

▼図3 住み続けたくない理由 (n=70人)



問4

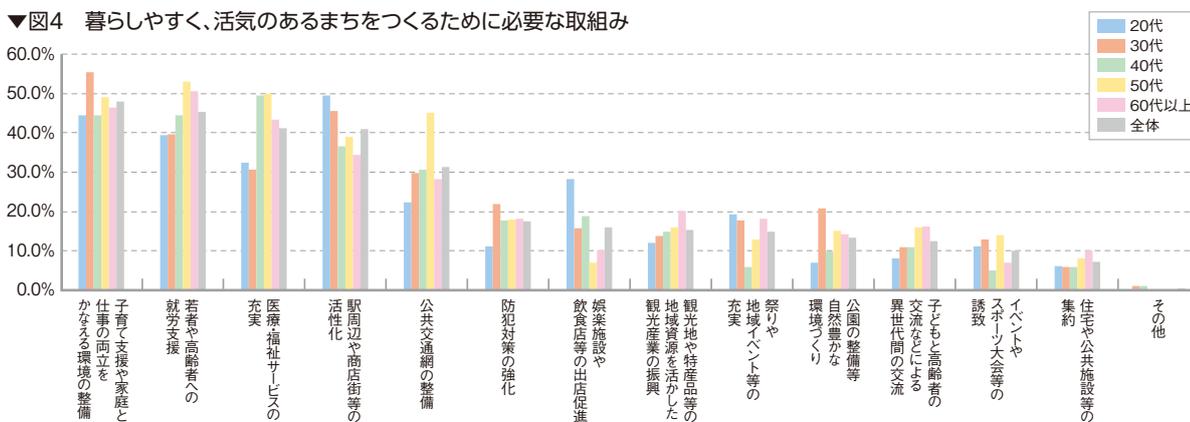
暮らしやすく、活気のあるまちをつくるためには、どのような取組みが必要だと思いますか？
(重要だと思ふ取組みを3つまで)

他地域への転出を食い止めるにも、新たに人を呼び込むためには、まちの魅力を高めることが重要です。そこで、暮らしやすく、活気のあるまちをつくるためには、どのような取組みが必要か尋ねたところ、「子育て支援や家庭と仕事の両立をかなえる環境の整備」が48・0%、「若者や高齢者への就労支援」が45・0%、「医療・福祉サービスの充実」が41・2%、「駅周辺や商店街等の活性化」が41・0%となりました。祭りや地域イベントの実施、スポーツ大会の誘致等のイベント面の拡充よりも、生活しやすい環境づくりを優先すべきだと考えている方が多いことがわかりました。

年代別に見ると、40代以上では「医療・福祉サービスの充実」の割合が高く、30代以下は「駅周辺や商店街等の活性化」等のまちのに

ぎわいづくりが重要だと考える割合が高くなりました。

▼図4 暮らしやすく、活気のあるまちをつくるために必要な取組み



問5

少子化対策としてどのような取組みが必要だと思いますか？
(複数回答)

地方創生に向けては、出生率の向上を図ることも重要です。そこで、少子化対策としてどのような取組みが必要だと思ふか尋ねたところ、「教育費や養育費など、子ども向けの経済的援助の増加」が61・2%、「家事・育児と仕事を両立できる環境の整備」が59・0%、「保育施設・学童保育の整備」が44・8%を占め、多くの方が直接的な援助と、子育てしやすい環境の整備の双方に取り組んでいくことが重要だと考えていることがわかりました。

男女別に見ると、男性は「教育費や養育費など、子ども向けの経済的援助の増加」、「若者への就労支援」等の経済的支援や「子どもを持つことの意義などの啓発」を求める割合が高くなっている一方、女性は「家事・育児と仕事を両立できる環境の整備」、「保育施設・学童保育の整備」等の環境

の整備を求める割合が高くなるなど、男女で若干意識の差が見られます。

▼図5 少子化対策として必要な取組み

